

# リトアニアの歩みと今後の展望

170781110 太田 雄基

# はじめに

- ・2019年5月26日、大統領選の決選投票  
無所属の経済専門家ギタナス・ナウダーダが当選。政治  
経験がなし。都市と地方の格差解消を訴求。
- ・2020年10月25日、議会選挙の第2回選挙  
野党の中道派・祖国同盟・キリスト教民主党が第一党へ  
政権交代  
経済面：市場原理を尊重  
価値観：伝統民族主義的な傾向

# リトアニアの地図



リトアニア全図

# 目次

- 第1章 リトアニアの成り立ちから独立まで
- 第2章 ソ連支配下のリトアニアと再独立
- 第3章 再独立後のリトアニア
- 第4章 現代のリトアニア

# 第1章 リトアニアの成り立ちから独立まで

- 第1節 バルト人とリトアニア国家の出現
- 第2節 ポーランド=リトアニア共和国と分割
- 第3節 ロシア蜂起
- 第4節 独立からソ連併合まで

# 第1節 バルト人とリトアニア国家の出現

リトアニアは

西欧と東欧の交差点で、独と露の間に位置

→2度も東の隣国からの占領、編入の理由

東欧との相違点

中世より個人営農→貴族の市民社会→西方文明が優勢でカトリックが支配的

# 第1節 バルト人とリトアニア国家の出現

ギリシア・カトリック教会：カトリックと正教統合の試み  
→中欧と東欧の橋渡し存在

バルト人：インド=ヨーロッパ語族の独立語派バルト諸語の民族言語集団

バルト人の子孫=リトアニア人とラトヴィア人

## 第2節 ポーランド=リトアニア共和国と分割

中欧の大国リトアニア

15C以降、ポーランドの政治的、社会的、文化的構造

国王の結婚で1386年～歴史開始

神聖なる結婚がポーランド=リトアニア連合国家を形成

→ルブリン合同で頂点に

1569年、ルブリン合同：国家の独自結合で、同盟以上  
合併未満→ヨーロッパ連合の先駆け



## 第2節 ポーランド=リトアニア共和国と分割

ポーランド:リトアニアの併合を要求、しかし否決  
スタニスワフ・アウグスト・ポニャトフスキがポーランド=リトアニア国家に即位→ロシアが干渉

1791年、五月三日憲法 世界2番目、欧州初の憲法

1792年、ポーランド=リトアニア共和国とロシアで戦争

1793年1月23日、ロシアとプロイセンによるポーランド=リトアニア共和国第2分割

民族的なリトアニア地域と西ベラルーシのみ残留

## 第3節 ロシア蜂起

1795～1915年：大部分はロシア帝国の支配下

1864年、急進的な貴族、地域の文化的・民族的な独自性変革の決断

→ナポレオン戦争や2つの蜂起で国家の再興

1883年、リトアニア人の民俗復興開始

## 第4節 独立からソ連併合まで

1914年6月28日、オーストリア=ハンガリー帝国皇太子  
暗殺

→連合国vs中央同盟国の戦争勃発

→リトアニアでは、急進左派と保守右派に分裂  
国だった過去の歴史的経緯は共通認識

1917年末のドイツ帝国崩壊を経て、  
リトアニアは共和制に移行

## 第2章 ソ連支配下のリトアニアと再独立

➤ 第1節 ドイツの占領・ホロコースト・ソ連の再占領

➤ 第2節 カウナスの杉原千畝

➤ 第3節 共産主義リトアニア

# 第1節 ドイツの占領・ホロコースト・ソ連の再占領

第二次世界大戦前、独とソの狭間の危機

1939年8月30日、独ソ不可侵条約、付帯秘密決議書  
リトアニアは独へ、他2国はソ連へ

バルト三国は、敵と味方で戦争

戦争犯罪、特にホロコースト責任問題が近年の国際  
注視の的

## 第2節 カウナスの杉原千畝

1939年秋、カウナスに日本領事館開設

杉原千畝は、「命のビザ」を発給

結果、6000以上のユダヤ人が安住地へ

人種的ジェノサイド政策で、数百年居住の民族喪失  
ユダヤ民族のみならず、リトアニア全体の悲劇

## 第3節 共産主義リトアニア

1944年9月22日、強制的な住民交換

ポーランド国民解放委員会とリトアニア政府間協定で  
実施

移送の大半は社会の上層部や知識人

ポーランド領内からは申し訳程度に、リトアニア系住民  
が追放

1953年スターリンの死後、人権の自由の侵害抑制

# 第3章 再独立後のリトアニア

➤ 第1節 再独立の歩み

➤ 第2節 リトアニア共和国の成立

➤ 第3節 経済の混乱



# 第1節 再独立の歩み

1980年代中旬 ミハイル・ゴルバチョフが改革政策開始

→中央委員会の指示に従順、地方で変化なし

→サーユディス(リトアニア語で運動)の始まり

スローガン「開放、民主主義、主権」

リーダーなし 持ち回りで議長を選出

リトアニア語を公用語とし、黄、緑、赤の三色旗を国旗

# 第1節 再独立の歩み

## サーユーディス主要目標

「開放、民主主義、法の支配、リトアニア共和国の政治・経済・文化的主権」

モロトフ=リッベントロップ協定50周年1989年8月23日

「バルトの道」と呼ばれる抗議活動

ヴィルニウスのゲディミナス塔からタリンのヘルマン塔まで670キロの手を繋いだ。

## 第2節 リトアニア共和国の成立

政治勢力が対峙

独立回復勢力 サークユディスvsリトアニア共産党

両者とも国家主権を目標に

ソ連政府は独立回復阻止に全力

・・・時すでに遅し

1990年3月11日 リトアニア共和国 成立

## 第3節 経済の混乱

ソ連占領期、人々は貧困生活

ソヴィエトの経済基盤で西欧の生活水準を希望  
現実的に不可能

ソ連崩壊

原材料やエネルギー資源の価格増→経済悪化  
不況前の40%程度の年も...

## 第3節 経済の混乱

1998～99年 ロシア財政危機

輸出産業は東側の不安定市場から需要が多い西側の市場に切り替え

結果、大きな下落を回避

計画経済は資本主義に

民間企業は銀行融資や海外投資で資金確保

# 第4章 現代のリトアニア

➤ 第1節 NATO、EU加盟

➤ 第2節 安全保障

➤ 第3節 バルト三国の協力

# 第1節 NATO、EU加盟

EU加盟よりもNATO加盟を優先

理由：安全保障上ロシアへの懸念

しかし、第一波加盟国の選考落ち

ヨーロッパ委員会の是正勧告が厳格

バルト諸国評議会が発足

緊密に協力、諸機構への統合促進へ

# 第1節 NATO、EU加盟

2004年、NATO、EU加盟

NATO→加盟国からの支援受け入れ可能に

バルト諸国は領空防衛の装備、資源なし

NATOからの支援で解決へ

EU加盟で経済が活発化→国内の競争激化→経済成長へ



## 第2節 安全保障

冷戦の終結後→ワルシャワ条約機構は完全消滅

ポーランドがヴィルニユス地方の領有権放棄

1997年10月初め、ロシアとリトアニアの国交樹立

旧ソ連の露はソヴィエト占領期の損害の補償義務

ソ連：国際情勢の結果により責任追及不可

## 第3節 バルト三国の協力

独立回復後、経済状況急激に悪化

バルト：国境なしの水平的な協力模索の場

EUの帝国的な面の抑制、地域協力への足掛かり

ロシアを、地域の経済発展の契機に

現実的な共通の利益創出の可能性開始

# 終章 今後の展望

①EUでの発言権、EUの決定に影響力あり  
安保や国際社会での地位向上、経済堅調  
一人前の欧州民主主義国

②EU加盟に痛み

最大のENG源、イグアナ原発の閉鎖

火力発電への転換 原料を100%露に依存

# 終章 今後の展望

①EUでの発言権、EUの決定に影響力あり  
安保や国際社会での地位向上、経済堅調  
一人前の欧州民主主義国

①を支持する  
経済的、社会的にEUの恩恵大  
各国と団結し、発展◎